

令和4年度第2回相談支援従事者研修検討会 検討チーム報告

チーム名 (各研修の連動性と内容の整理)

チームメンバー名 (蛭川、杉田、中島、高江洲) 事務局 (益子、阿部)

報告内容

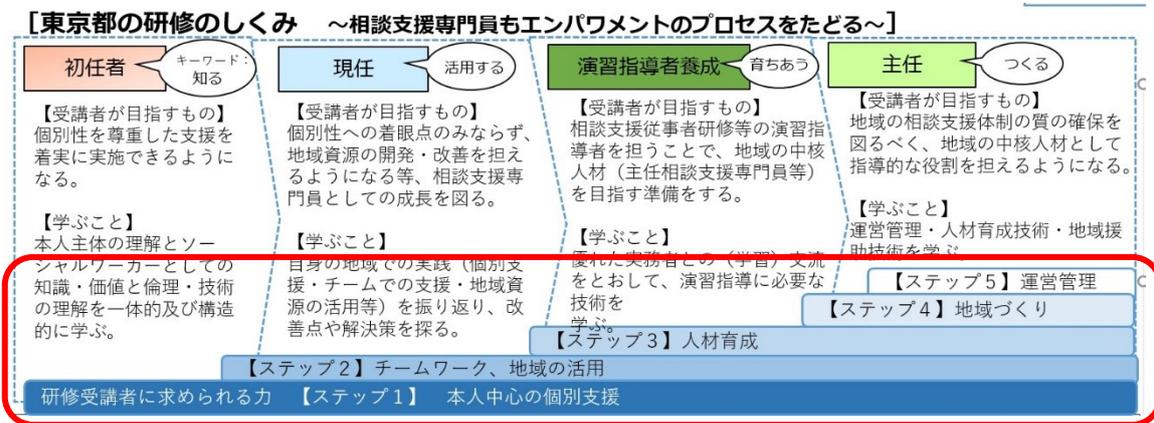
1 課題として整理されたこと

○どのように研修を俯瞰するか

→各研修はそれぞれが独立しているのではなく、初任から現任、主任まで、相談支援専門員として「どうレベルアップしていくか」のストーリー(研修の目的や獲得目標)があるはず。よってレベルに沿って、研修の中身を整理してみる(例えば同じ事例を使っている、目的(レベル)が違うため違うツールを使っている箇所など?)

○何をベースに整理するか

→都の研修の目的は「私たちが目指す相談支援専門員の姿 Vol.7」を達成するため。よって、「目指す姿」の「東京都の研修のしくみ」に含まれている「研修受講者に求められている力【ステップ1～5】」を活用する



2 今年度、チームで取り組むこと

○成果物があつた方がよいのでは、という意見が出たものの、具体的な成果物をどのようなものにしたらよいのか結論は出ていない。

→ひとまず、「目指す姿」の【ステップ1～5】の枠組みを使って、初任から現任、主任までのストーリーを可視化するために、各研修のカリキュラムの中身(目的に対する方法論やツール)を洗い出してみる。

		初任	現任	主任
ステップ1	本人中心の支援	ニーズ整理・5ピク…		
ステップ2	チームワーク・地域の活用			
ステップ3	人材育成			
ステップ4	地域作り			
ステップ5	運営管理			

(これはチーム会議では共有できなかった蛭川の勝手なイメージです。)

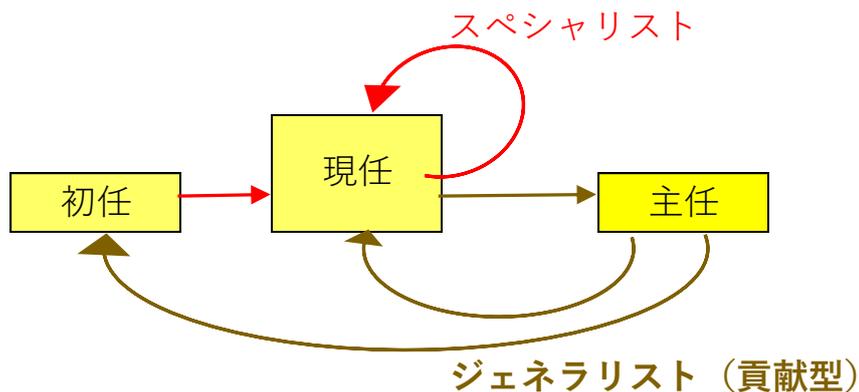
3 他のチームから意見がほしいこと

○ストーリーの資料は何を参考にしたらよいか

○整理した内容をどのように反映したらよいか (成果物を示し方)

○ストーリーの見せ方についてのアイデア

例えば、現在は、「目指す姿」の中で、初任→現任→主任というキャリアアップ的な見せ方になっていると思いますが、主任は貢献型という説明を聞いた後は、以下の図のようなイメージに変わった。



※現任として色々なケースの経験を重ねることと、主任としての役割は少し違うということ
を研修の中で伝えていくことで、主任を置く意味を理解できるのではないか

令和4年度第2回相談支援従事者研修検討会 検討チーム報告

チーム名（ 地域実習を支える仕組みづくり ）

チームメンバー名（藤田 花形 神作 安井） 事務局（益子 田村）

報告内容

1 課題として整理されたこと

- ① 実習対応者の不足に伴う、実習対応者の水準のバラつきを揃えていくための説明会や研修等の開催
 - ・ 実習対応者の研修や実習の目的の理解促進
 - ・ 主任相談支援専門員の役割の仕組みづくり
 - ・ 予算が厳しい中での無報酬による民間への依頼
- ② 地域実習が相談支援専門員にとって効果のあるものとなっているかの検証
 - ・ 受講者に対するアンケートの実施
- ③ 初任者研修における実習対応時の5pics・ニーズ整理票の理解と取り扱いについて
 - ・ アセスメントの習熟度を見るためにSV対応者側の理解も必要
- ④ 行政職員の相談支援従事者研修に対する理解
 - ・ SV側の十分な理解が必要なため今年度のように区市町村説明会を実施していく必要はあるが、単独実施は難しいかもしれない

2 今年度、チームで取り組むこと

- ① 初任者研修に対する拠点機関向け実習ガイドの作成
 - 文字、紙ベースだけの理解は難しいと判断し、演指研及びFT説明会、また動画などの利用も想定
- ② 初任研及び現任研の地域実習の検証
 - アンケートの実施（行政担当者・SV担当者・受講者）

以下、初任者研修における地域実習受け入れに向けての対応案

【案①】 初任研まとめ役説明会の单元ごとのスタディサプリア動画の作成

- 東京都として動画配信サイトの利用が可能かどうか検討中

↓

【案②】 拠点機関及び行政職員向け説明会の実施

- 演習指導者養成研修（9/27）に時間を分けて開催
 - Am FT向け講義の実施
 - Pm 拠点機関及び行政職員向け説明会の実施
- 初任者研修FT説明会（9/28～30）に合わせて開催

- 【案①】が実施可能になった場合、講義及び説明会の内容変更やボリュームを調整する必要あるか検討
 - 見逃し配信も利用可能か検討
 - * 案①の動画配信、案②の抱き合わせでの説明会開催が難しい場合は行政に DVD を送るなどで対応
 - * 案①②で進める場合には、初任研 MF チームとの役割分担や打ち合わせが必要
- ↓
- 【案③】 都心身障センターで地域対策が難しい場合は、東京都相談支援ネットワークに協力依頼をし、協働して課題解決に向けた体制を構築する

3 他のチームから意見がほしいこと

- ① 前年度の初任研チームとして地域実習の SV についての到達点はどのくらいを想定していますでしょうか？
- ② 初任研まとめ役説明会のスタディサプリア動画の配信可能になった場合、説明会の内容変更やボリューム調整は可能でしょうか？または必要でしょうか？
- ③ 初任研、現任研共に実習対応者の不足が課題となっていますが、主任相談支援専門員が積極的に FT を担っていただくために考えていることがあればご意見ください。
- ④ 前年度研修受講者が SV を担うことで研修や実習の目的なども理解できていて、尚且つ経験年数の近いピア的な先輩相談支援専門員とのつながりができるといった意見もチーム内で交わされましたが、本来の基幹や拠点、中核的人材という意味も踏まえて皆さんのお考えはいかがでしょうか？

令和4年度第2回相談支援従事者研修検討会 検討チーム報告

チーム名（ 研修に携わる人材の育成と確保 ）

チームメンバー名（中村 佐藤 北川） 事務局（益子 樋口）

報告内容

1 課題として整理されたこと

- ① 東京都の専門員像のあるべき姿において「都内での各地域格差はあるもの」と捉えなおす事で、今一度「ご当地ならではのありべき姿・地域の強みを活かす〈人材育成ビジョン〉」を示す必要がある。
- ② 「主任の役割」→基幹のあるなしそれぞれで、主任自身が担う「育成」への視点を「主任自身」が意識する必要がある。
- ③ 「**実地研修**」↓
 - ・「地域全体で育成し底上げをしていく意図」「地域を耕し、繋がりを作る〈共生社会〉への一環となる」という、受け入れ側や市区町村の理解が並行していく必要がある。
 - ・地域に散らばる相談員にも「実地研修」を浸透させていく必要がある。
- ④ 「人材育成」「それを行う者の確保」「体制の整備」⇒「**官民協働**」が必要。
 - ・市区町村への説明・迷いの共有・実施後のフィードバック
 - ・つきつめれば「地域住民が対象」「地域を巻き込むもの」「複層的ケースの存在」
 - ・・・自治体（職員）の利益へも。

2 今年度、チームで取り組むこと

【バージョン8にむけ】

- ・新たな視点でも捉えた〈育成ビジョン〉検討
- ・これからの人材育成に関わる部分の「言語化」
- ・育成段階のピラミッドなど（見えやすくするもの・イメージ）
- ・7からの進化と8への提案
- ・立場による役割に再提示→初・現・主・委託・基幹 等
- ・「そもそもはソーシャルワーカーである」という意識への立ち返り
- ・2つの相談支援専門員の活躍・・・「協力者・誰しもにわかるもの」+「専門員がわが事としてわかるもの」
- ・「意思決定支援」を含んだ表し方でなく、明確に表していく。

3 他のチームから意見がほしいこと

- ・逆発想での視点の共有 →「個別と地域の両輪」地域をみなければ地域に必要なものがわからないという視点からの人材育成
- ・実地に関し、協力者や市区町村にとって「必要な言葉」+官民協働への効果的キーワード。
- ・第6期障害福祉計画の新たな指標意識やピアサポーター参画 など
- ・他ワーキンググループと連動できることは？ 整理